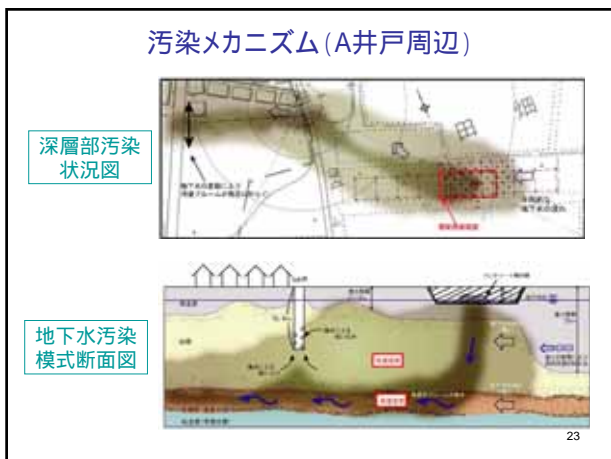


A井戸詳細地下水汚染シミュレーション結果のまとめ

- A井戸南東90m地点で発見されたコンクリート様の塊がA井戸の汚染源となりうる事が再現された。
- コンクリート様の塊の当初のジフェニルアルシ酸 (DPAA) 溶出濃度は、現況の汚染状況を再現するには、3200mg-As/Lが妥当であった。
- 予測解析の結果、A井戸周辺の地下水中の有機ヒ素化合物濃度は、約60年後に0.01mg-As/L程度未満になる結果となった。
(注)汚染源からのDPAAの当初溶出量が3200mg-As/Lの場合

22



ABトラック広域地下水汚染シミュレーション

◆概要

- A井戸南東90mで発見されたコンクリート様の塊から溶出したジフェニルアルシ酸 (DPAA) を含む汚染地下水が、A井戸周辺からB地区、ABトラック南西地域等で確認されている地下水汚染の汚染源になりうるかについて、シミュレーションによる再現を実施

24